

## 令和8年度 庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

■日 時：令和8年5月19日（火）14：50～16：35

■場 所：庄原市ふれあいセンター コパリホール

■参加者：庄原市内各小・中学校の教職員

■目 的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

講話：「科学研究の進め方」

講師：広島県立教育センター 教科教育部 指導主事 中島 純平

【講話内容】

- ・理科の見方・考え方を働かせた研究の視点や広島県科学賞の評価の観点及び研究を深めるポイントについて
- ・データの数値化、表やグラフの活用により、研究の客観性を高める方法について
- ・子供たちの「あれ？」という疑問を大切に、普段の授業から疑問を深めていく指導の在り方について

【研修の様子】

・昨年度の出品作品を3点取り上げ、評価の観点に即して、研究を深めるポイントを学んだ。研究者が感じた日常生活の疑問や研究したいことについて、実験や観察をとおして、客観性を高めながら調べることで科学研究のレベルが上がることを具体的に学ぶことができた。



【参加者より】

- ・子供たちにたくさんの疑問をもたせること、指導者が意図をもって関わることで、科学研究のタネを授業の中でまいていくことが大切だと思った。また、グラフや表を使ったまとめ方を授業を通して経験させていきたい。
- ・科学研究の基となる日々の授業づくりの大切さを改めて実感した。本時の授業で子供にどの力を付けたいのか明確にして、科学的に解決するために必要な資質・能力の育成を図っていきたい。
- ・「いかに疑問をもたせるか」の訓練は小学生、中学生に限らず大切であると思った。その疑問をいかに探究につなげていくかというところを授業で訓練していきたい。